

Coatings world 紙
世界のトップ塗料メーカーランキング
2010-2018年データの解析

2019.7.10
関東塗料工業組合
事務局

1. トップメーカーランキングの意義とランキングされた会社数の推移

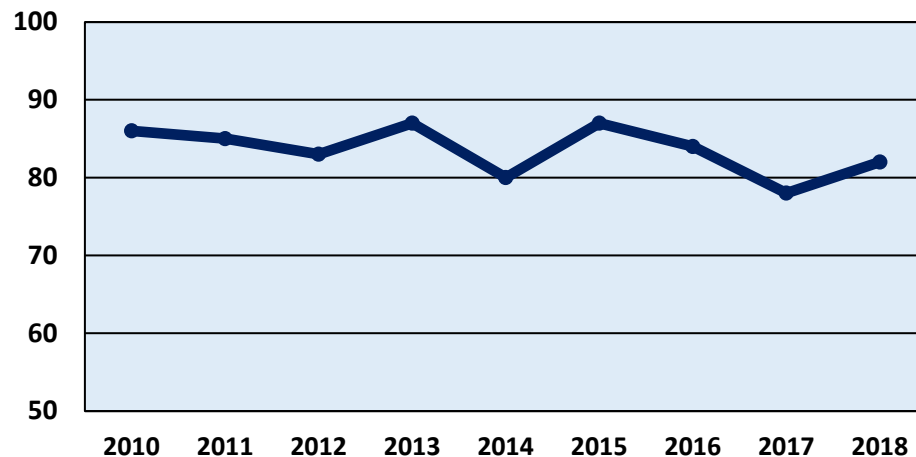
(ランキングの意義)

Coatings world 紙は、毎年7月に前年度の世界のトップ塗料メーカー（年間売上1億ドル以上）のランキングを発表している。

売上金額は、すべてUSドルに換算されてランク付けされるため、為替の動向によって影響を受けることは避けられないが、世界中の塗料メーカー毎のランキングはこれしか存在しないため、毎年その内容が業界内で注視されている。

時として不可解な数値が報告されているケースも散見されるものの、世界市場を俯瞰する上での参考資料足り得るものと考えており、2019年のランキング発表に際し、過去8年分を遡り解析を行った。

売上100万ドル以上の会社数の推移(単位:社)

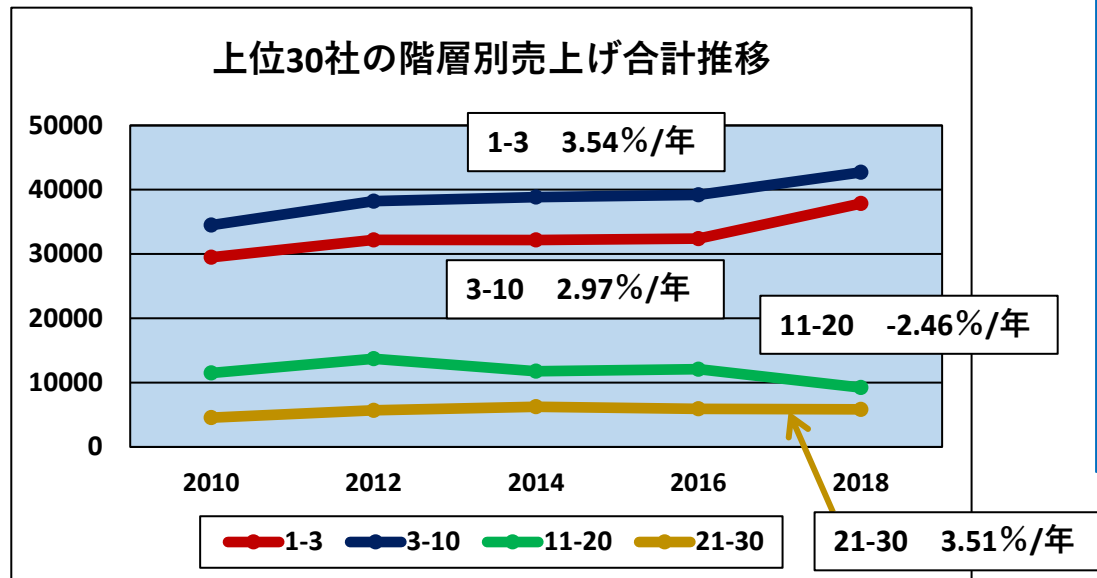
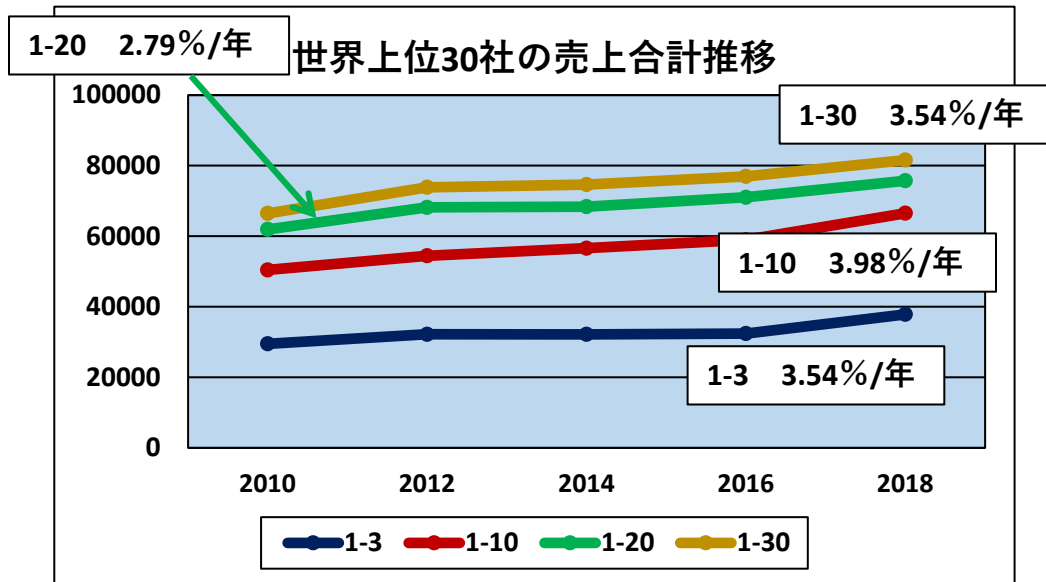


(ランキングされた会社数の推移)

ランキングされた会社数は、この8年間でみれば、緩やかな減少傾向にある。

塗料全体の使用量は年率5%程度の割合で伸びている（スライド5）ことを考えると、ランク入り企業数の減少は不可解とも思えるが、後述するように、上位企業においては、合従連衡、企業買収が盛んにおこなわれていることの証左と考えれば理解できる現象である。

2. 上位30社の売上合計推移とその内訳



(上位30社の売上合計の推移)

1-3位の合計、1-10位の合計、1-20位の合計、1-30位の合計のいずれも順調に売上げを伸ばしているように見える。

そこで、上位30社のどの階層が売上げを伸ばしているかを見たのが、下のグラフである。

大変興味深いことに、11-20位の売上合計は、増加ではなく減少しており、上のグラフで示された全般的な増加傾向は、圧倒的に大きな上位メーカーの伸びに牽引されたものであることが理解される。

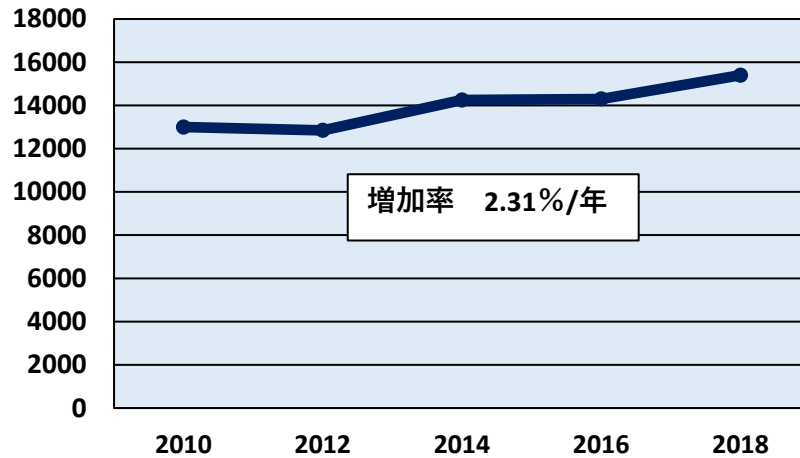
またこの11-20位の売上合計の減少も、企業買収によるものとも推定される。

3-10位の売上合計も1-3位の売上合計と同様に増加しており、巨大化傾向がトップ10全体で起きていることを示している。

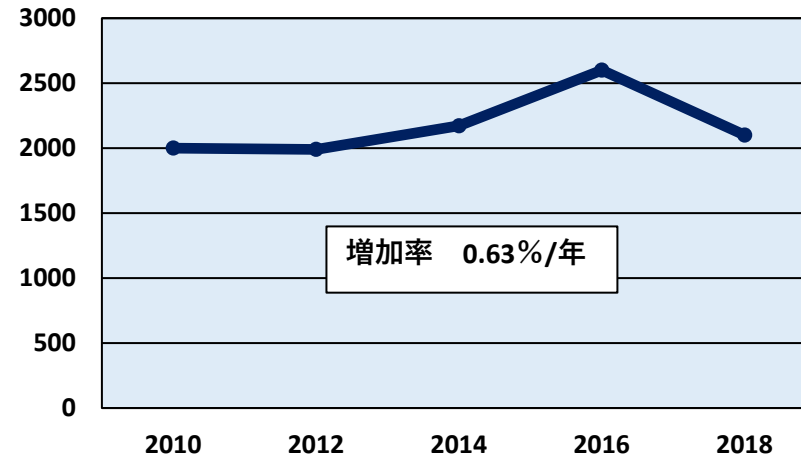
3. 上位30社の売上推移・・定点観測

(定点観測結果) 各年のランキングの1位、10位、20位、30位に相当する会社の売上推移を下に
しめす。10位、20位の売上金額は乱高下しており、ここでも企業買収の影響が見て取れる。

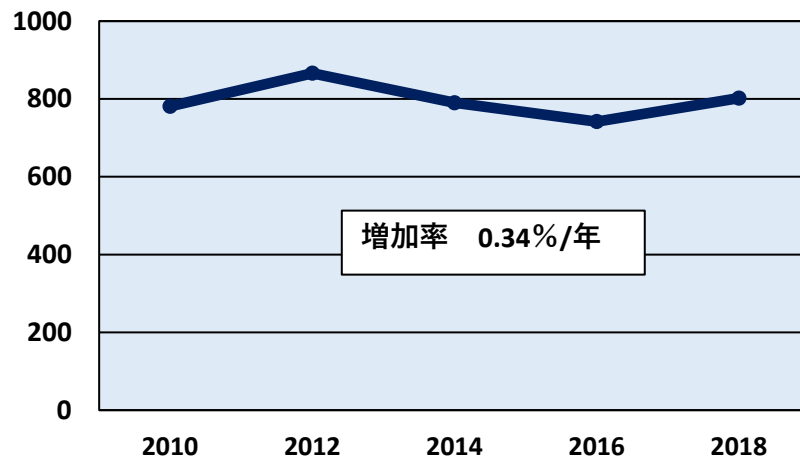
1位の会社の売上推移



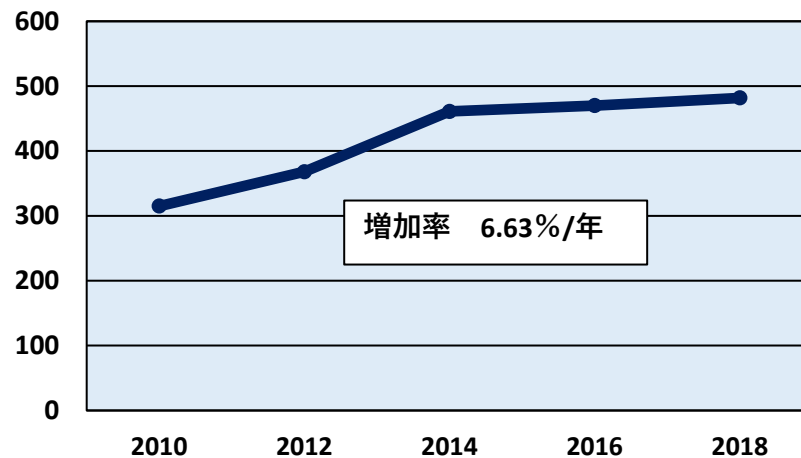
10位の会社の売上推移



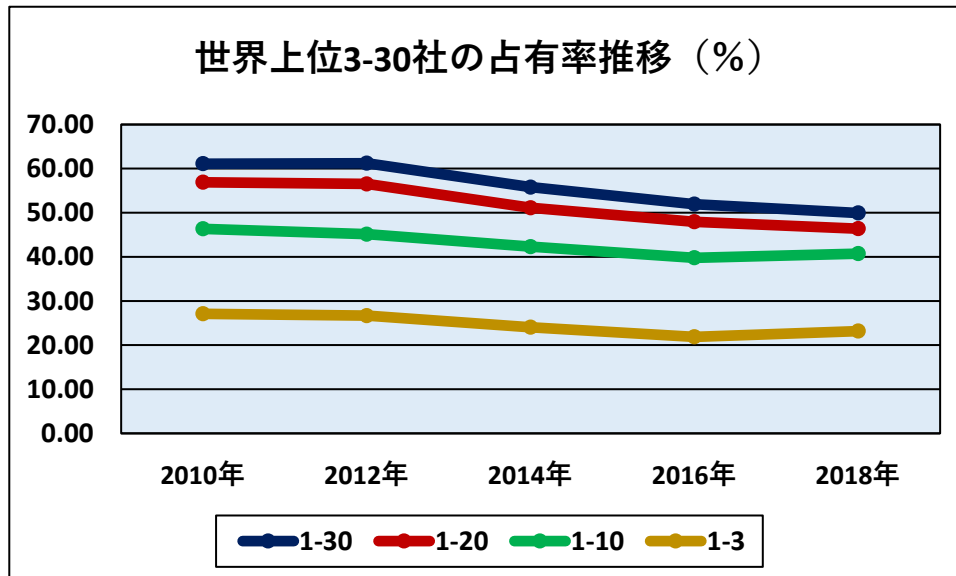
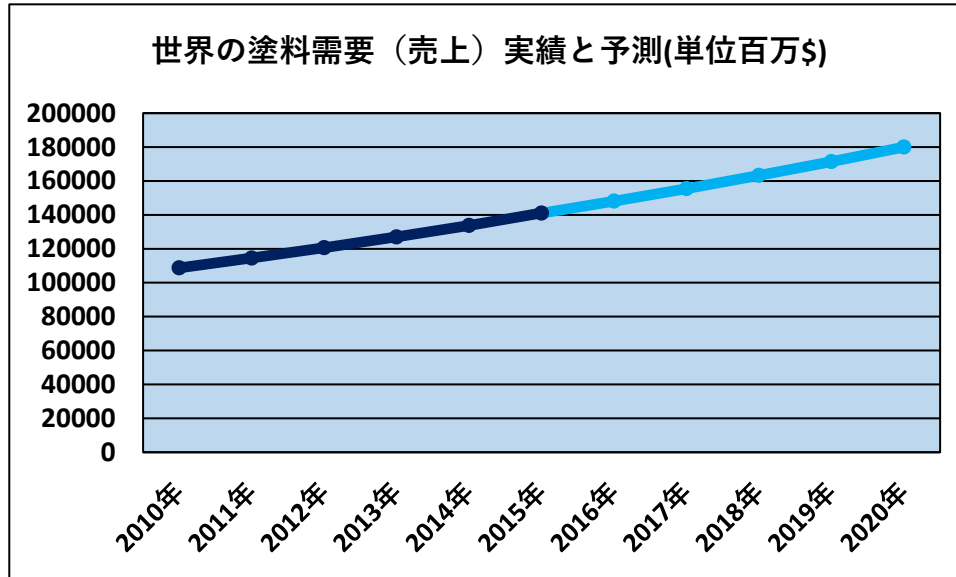
20位の会社の売上推移



30位の会社の売上推移



4. 上位3-30社の市場占有率の推移



(世界の塗料需要、実績と予測)

上の図は、世界の塗料に関する総需要の実績(2015年まで)と予測(2020年まで)である。

(Global Paint and coatings Industries Market Analysis (2015-2020) より引用)
この間およそ年率5%で成長するとしている。

これをもとに上位1-3位、1-10位、1-20位、1-30位の市場占有率を計算したのが下の図である。

先ほど見たように、上位30社の平均増加率は年率5%に及ばないため、上位30社の全市場占有率は、年とともに減少すると算出された。

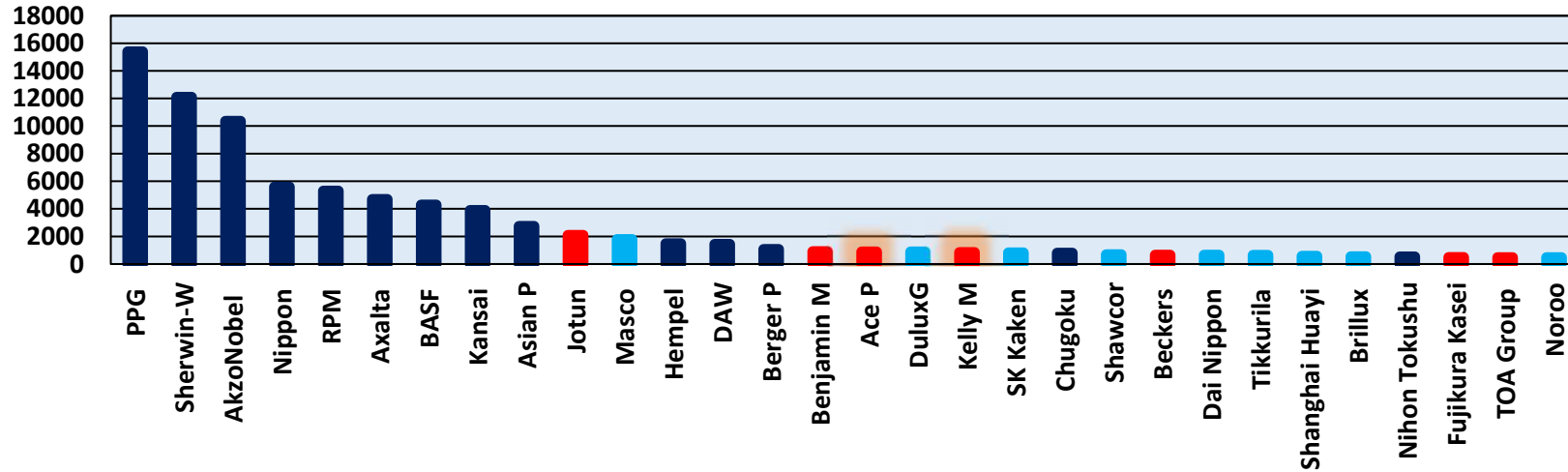
1990年代後半から2000年代にかけての市場の寡占化傾向はひとまず一段落されたことになるが、これはひとえに新興国市場を中心とした活発な需要増がもたらしたものであり、実際の需要の推移についての検証が必要である。

1-10位の10社の占有率は、低下したとは言えまだ40%以上あると算出されている。

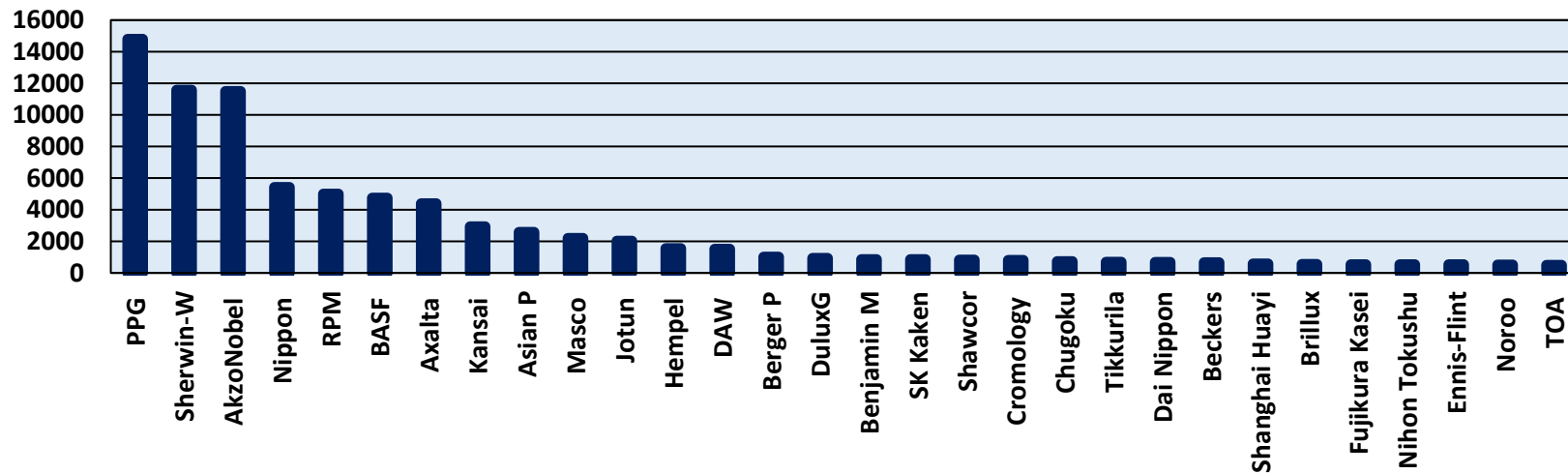
5. 2018年の売上上位30社

(2018年の売上上位30社) 2017年と比較して、大きな変動はなく、トップ10の順位も全く同じであった。10位から30位については、USAのKelly MooreとAce Paintがいきなりランクインした以外は大きな動きはなかった。(棒の赤は順位上昇、水色は順位下降)

2018年 上位30社の売上金額 (単位百万\$)

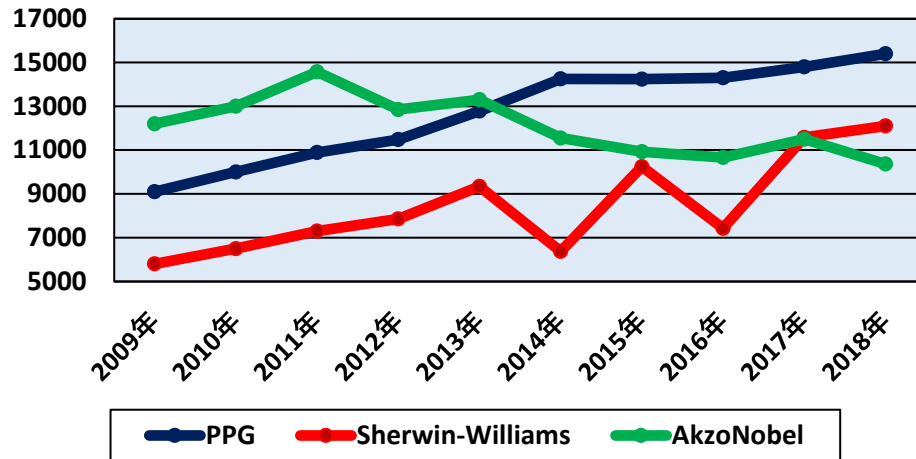


～参考～ 2017年 上位30社の売上金額 (単位百万\$)

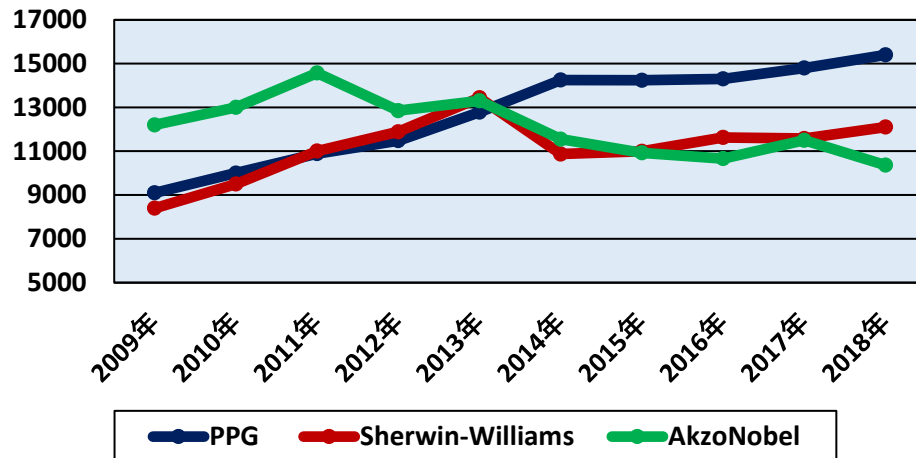


6. トップ3の競合

鎊を削るBIG3（2016までSWとV分離）



鎊を削るBIG3（2016以前もSW+V合算）



（トップ3の競合）

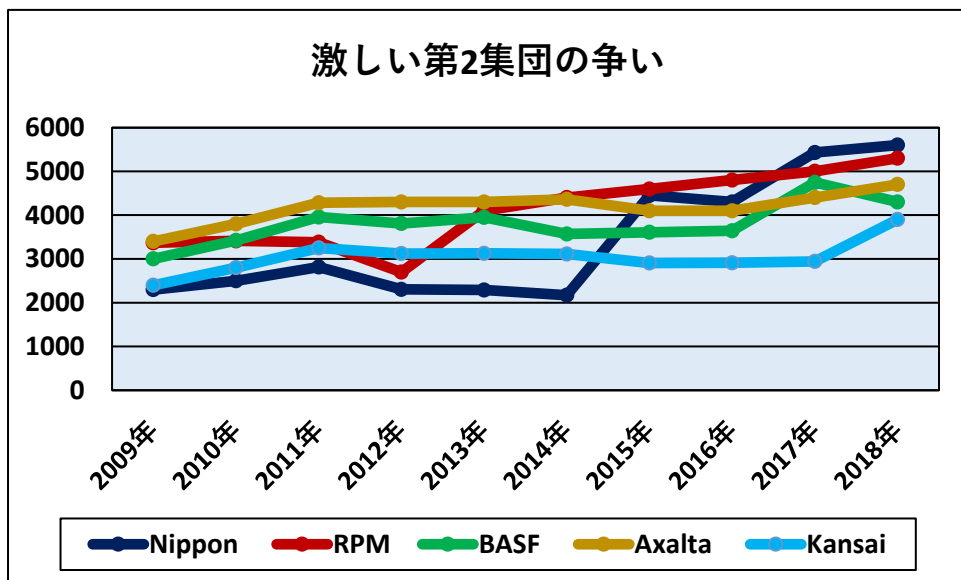
現在のトップ3はいずれも売上げが100億ドル（1兆円）以上の企業である。

このトップ3における最近の大きなできごとは、Sherwin WilliamsによるValsperの買収である。この買収の影響をみるため、上のグラフでは、買収前の2016年まではValsperを別会社として扱い、下のグラフで買収以前よりValsperを合算し同一会社として表示してみた。

途中Coatings World社の集計方法の変更などがあり、わかりにくくなっているが、Valsperの40億ドルが加わって初めて業界2位の地位にたどり着いたことが見て取れる。

PPGは順調に企業買収を進め、トップの地位を固めつつあるが、一方で最初に100億ドル企業となったAkzo Nobelは、このところ、動きが少なく、売上も低迷している。資金的には最も余裕があると考えられ、次に大きく動くのはAkzo Nobelと言われている。

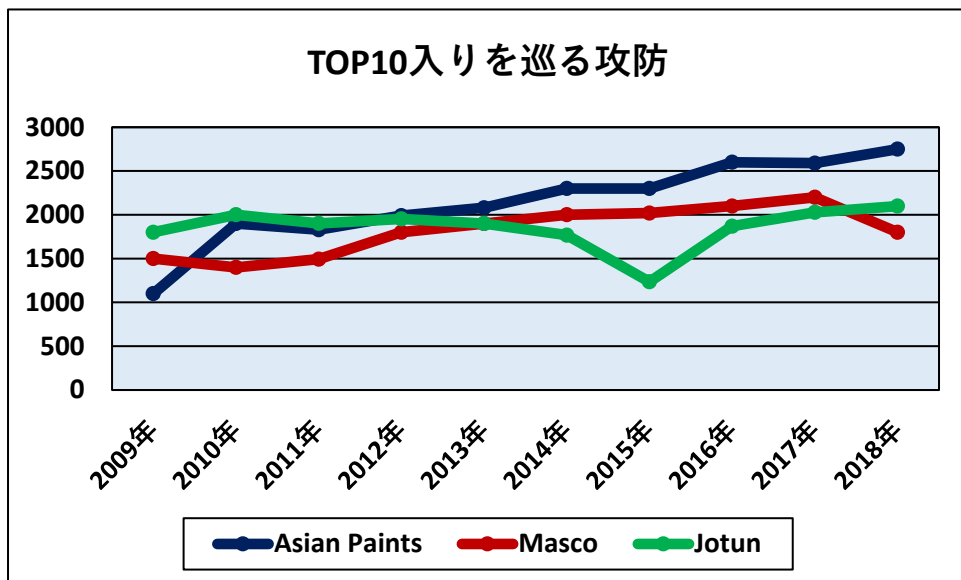
7. トップ10の内外における競争



(激しい第2集団の争い)

トップ3の争いに隠れて目立たないが、第2集団（4位から8位）も激しい争いを続けている。この5社の平均売上増加率は、トップ3のそれを上回る。

中でも日本ペイントは、2014年に主要な海外合併を子会社化し、一挙にグループのトップに躍り出てきた。最近もオーストラリア、トルコで大型買収を行っており、2019年の売上では、第2集団から抜け出し単独4位となるものと推定される。



(トップ10入りを巡る攻防)

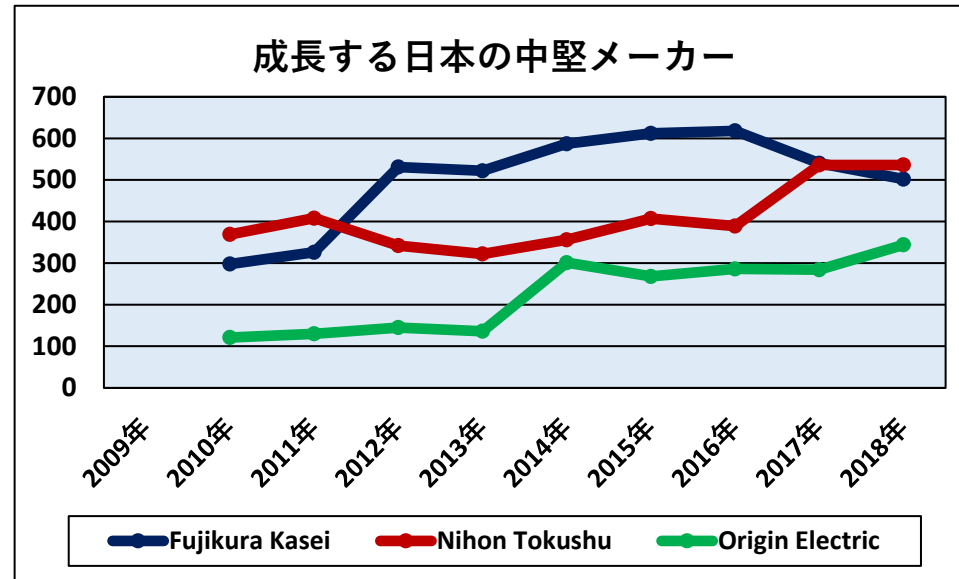
トップ10の目安は、20億ドルであり、Asian Paint、Masco、Jotunが争っている。Asian Paintはインドの高成長に支えられ急激に売り上げを伸ばし、この8年間で売り上げが2.5倍以上となっており、しばらくこの急成長が継続するものとみられている。Jotunはすでに商売の中心をヨーロッパからアジアに移しており、アメリカを主な市場とするMascoよりも伸びしろとしては有利と見られている。

8. 各地域の状況 ①日本

ランク入りした日本企業（単位百万ドル）

会社名	2018年
Nippon Paint	5600
Kansai	3900
SK Kaken	830
Chugoku Marine	802
Dai Nippon Toryo	661
Nihon Tokushu	536
Fujikura Kasei	502
Musashi Paint	375
Origin Electric	344
Rock Paint	223
Kikusui Chemical	205
Natoco	162
Shinto Paint	130*
Asahipen	125
Tohpe	107

*神東塗料の1億3000万ドルという数字はいかにもおかしいが、とりあえずそのままの数字を収録した。



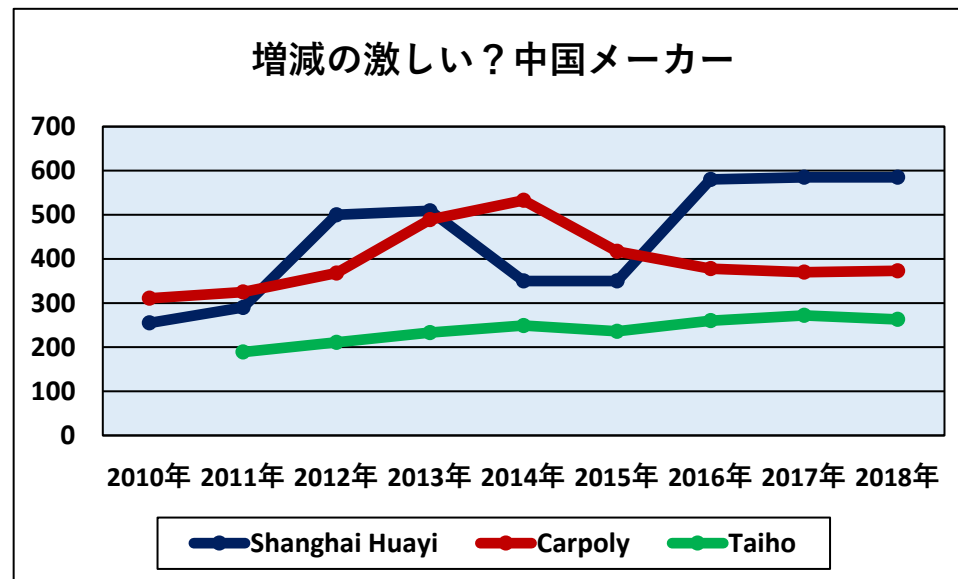
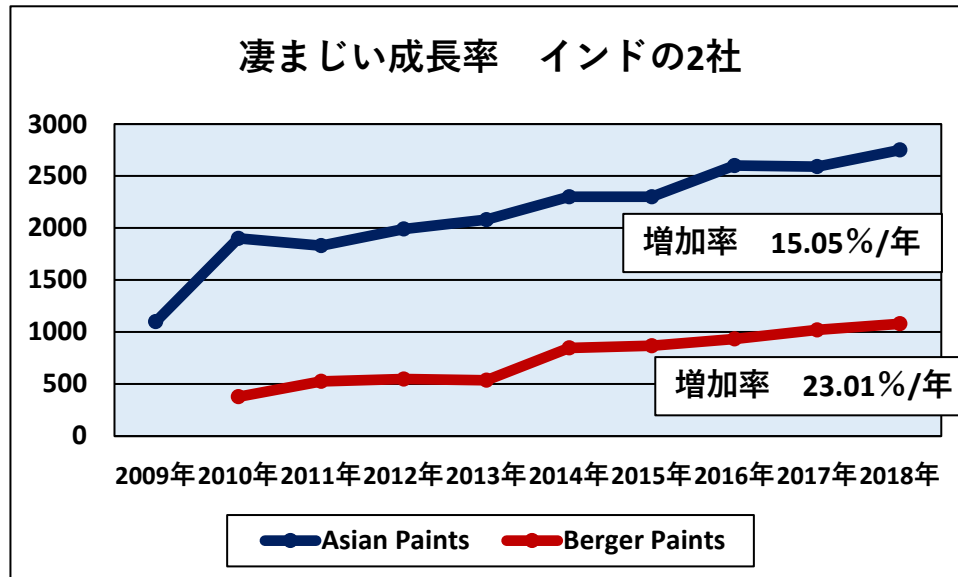
（日本の塗料メーカー）

世界の1億ドル超企業82社のうち、15社が日本企業であり、ランク入り企業数は2017年以降アメリカを抜いて世界一となった。

Coatings world紙は、この統計について「できるだけ塗料だけに絞って集計している」と公言し、現にSherwin Williams社の塗装用具の売上を除外している。ただし、この厳格さはすべてに適用されているわけではなく、日本の場合、日本特殊塗料、藤倉化成に対しては売上全体の数字を採用しているようである。この両者とオリジン電気の売上の増加が目覚ましく、グラフ化して紹介する次第である。

9. 各地域の状況 ②アジアパシフィック

50位以内のアジアパシフィック企業（単位百万ドル）



会社名	国名	2018年
Asian Paints	インド	2750
Berger Paints	インド	1080
DuluxGroup	豪	899
Shawcor	カナダ	700
Shanghai Huayi	中国	585
Noroo	韓国	482
TOA Group	タイ	484
Samhwa	韓国	247
Carpoly	中国	373
SKSHU Paint	中国	243
Pacific Paint	フィリピン	290
Taiho	中国	263

（アジアの塗料メーカー）

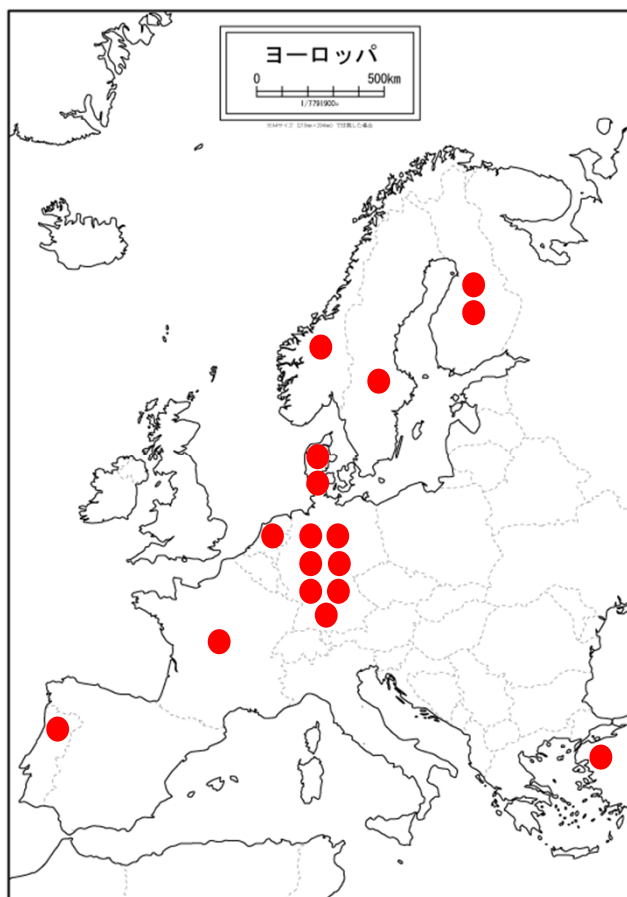
今や世界の2大市場となりつつある中国とインドであるが、ことランク入りした企業の様相となると大きく異なる。

インドの場合、地場の2大メーカーが高度成長期を彷彿とさせる増加を示しているのに対し、中国の地場企業は存在感が薄く（規模が小さく）浮沈が激しいようである。ただし、中国のランク入りした企業はいずれも設立からの年数が浅く、今後大きく成長する可能性を残している。

10. 各地域の状況 ③ヨーロッパ

(ヨーロッパの塗料メーカー)

AKZO Nobel, BASFをはじめ錚々たるメーカーがランク入りをしており、全部で32社（下表は50位以内の17社）と地域では最多を数える。しかも特定の国に偏るわけではなく存在感のある個性豊かな塗料製造会社が存続しており、歴史と文化を感じさせる。2018年の統計ではCromologyが前年の半分近くにまで減少しているが、Coatings Worldでは全く説明されていないので事情が分からない。この地域では他地区に見られるように急成長を見せている会社は見当たらない。



50位以内のヨーロッパ企業（単位百万ドル）

会社名	国名	2018
AkzoNobel	蘭	10360
BASF Coatings	独	4300
Jotun	ノルウェイ	2100
Hempel	デンマーク	1490
DAW	独	1447
Cromology	仏	452
Tikkurila	フィンランド	650
Beckers	スウェーデン	670
Brillux	独	558
Meffert AG	独	254
Teknos Group	フィンランド	457
Mankiewicz	独	395
Betek Boya	トルコ	360
Tiger Coatings	オーストリア	330
Flugger Group	デンマーク	272
Karlworwag Lack	独	277
CIN – Corporação	ポルトガル	277

11. 各地域の状況 ④アメリカ

50位以内のアメリカ企業（単位百万ドル）

会社名	2018年
PPG	15400
Sherwin-W	12100
RPM	5300
Axalta	4700
Masco	1800
Benjamin M	921
Ace Paint (USA)	900
Kelly Moore (USA)	860
Ennis-Flint	340

（アメリカの塗料メーカー）

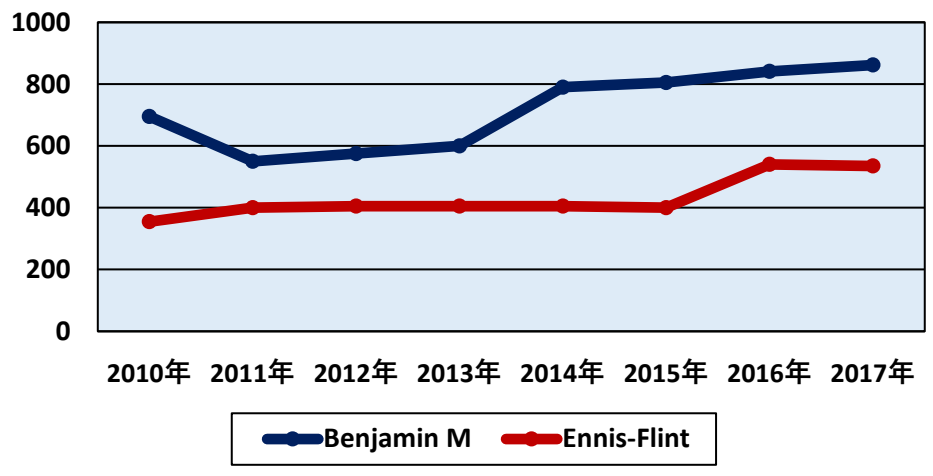
かつては世界最大の単一マーケットであったアメリカは、建築塗料の一人当たり消費量が年間8Lを越える一大消費国であり、世界の1,2,5,6位の企業が存在している。が、こうした大企業を除くと意外にランク入りする企業は少ない。特徴あるもの以外はすでに巨大企業に飲み込まれてしまったのか？

そんな中でのトピックス2つ。

① Benjamin MooreとEnnis Flintはまずまずの成長をとげていた。それぞれ、内装、路面用と分野は違えど独自の領域に特化している。

② Ace Paint と Kelly Moore（赤字）が2018年は不連続的急成長し一挙に順位を上げた。Coatings World紙にも、インターネットにも急成長に関する情報は見いだせなかった。

アメリカの中堅2社の売上推移



12. 各地域の状況 ⑤その他の地域

ランク入りしたその他地域の会社（単位百万ドル）

会社名	国名	2018
National Paint Factories	Jordan	427
Betek Boya	Turkey	360
Pintuco	Colombia	233
Yasar	Turkey	238
Tambour	Israel	200
RAR Holding	UAE	198
Kapci	Egypt	180
Kayalar Kimya	Turkey	123
Russia Coatings	Russia	110
WEG	Brazil	100

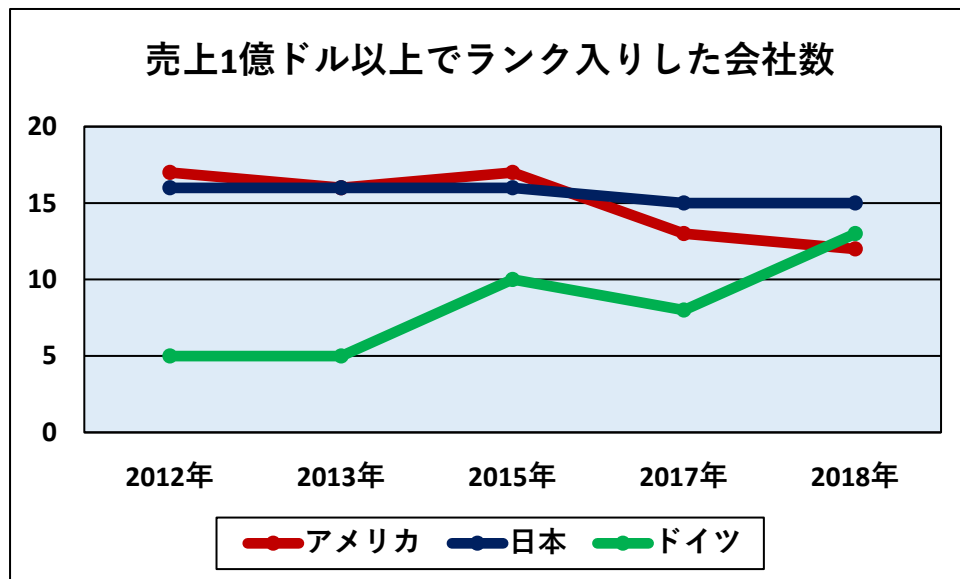
（その他地域の塗料メーカー）

南アメリカ、中(近)東、アフリカ、ロシアに本社がある企業をリストアップしたが、意外にも、アフリカ、ロシアとも1社しかランク入りしていなかった。

トルコが3社、中東が3社ランク入りしており、文化と歴史を感じさせる。

いずれの企業も規模は大きくなく、世界市場に大きな影響を及ぼす存在にはなり得ないものと思われる。

13. 世界で最も多くの企業がランク入りしている国は？



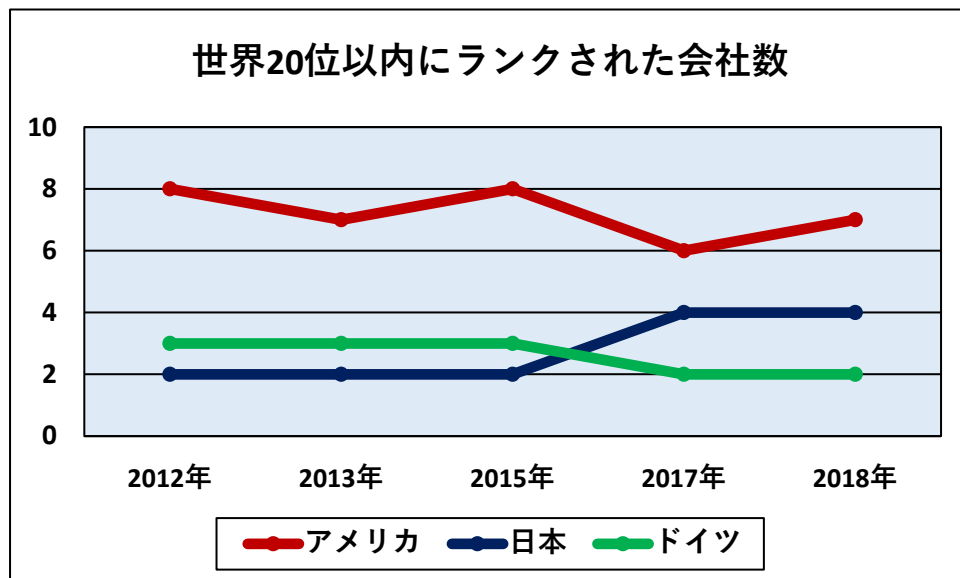
(国別ランキング入り会社数)

2018年の世界の1億ドル超の会社82社のうち、15社が日本企業であり、日本が最多であった。かつてはアメリカが世界一であったが、この8年間アメリカの会社数は次第に減少し、日本はほとんど変化がなかったため、結果的に日本が国別会社数世界一となった。

このことは、しかし、単純に喜べるわけでもない。それぞれの日本企業は安定して経営を続けてきたわけであり、それはそれで素晴らしいことであるが、反面、世界からみれば飛躍的な成長や変化に乏しかったとも言えるのではないだろうか？

日本ペイントや関西ペイントは積極的に買収を行ってきたものの、今のところ、TOP3を脅かすような動きにはなっていない。1兆円企業を目指している日本ペイントの今後の動きに期待したい。

また注目すべきはドイツ企業で、この6年間にランク入りの会社数を倍増させた。新しくランク入りした会社の多くは、創立が古いながら技術革新により最近急成長している会社のように思われる。動向に注目したい。



14. まとめ

1. 上位10社は、継続して売上げを伸ばしている。
2. 反面、年商1億ドル以上の会社の数は緩やかな減少傾向にある。
3. 上位30の売上合計は増加傾向にあるが、11～20位の合計はやや減少傾向にある。
4. 売上10位、20位の会社の売上は、必ずしも増加傾向にはない。
5. 2-4から、巨大企業が買収によりますます巨大化していることが示唆される。
6. しかしながら、世界の塗料需要の増加は上位10社の売上合計の増加を上回っているため上位10社の市場占有率は低下傾向にあり、2018年で40%強と推測される。

7. 2018年度の上位30社の顔触れと順位は、2017年とほとんど変わっていない。
8. 上位3社では、依然としてPPGが首位を堅持し、Sherwin Williamsがこれを追隨しているが、Akzo Nobelの売り上げは低迷している。
9. 4-8位の第二集団では、各社とも積極的に売り上げを伸ばしているが、日本ペイントが頭一つ抜け出し、来年は集団を突き放して単独4位となり上位3社を追隨する構えを見せるものと思われる。

10. 地域別見た場合、日本の会社はランク入りする顔触れと順位がほとんど変化しない世界的には稀有な状況となっている。インドでは地場の2社が急成長を見せているのに対し、中国では地場の会社があまり育っていない。
11. ヨーロッパからは2018年度において最多の32社がランク入りしており、国籍、主要品目とも多彩である。アメリカは巨大企業を除くとランク入りしている企業が少ない。
12. 国別のランク入り会社数では、日本が2017年度より世界最多となった。アメリカのランク入り会社数は減少傾向、ドイツのランク入り会社数は急激に増加傾向である。